

様式 F-7-1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成24年度）

1. 機関番号 

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

      2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C)      4. 補助事業期間 平成23年度～平成25年度
5. 課題番号 

2	3	5	0	0	8	9	2
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題 無文字社会の伝承染織技術の保存と学校における教育課程最適化プログラムの開発

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 3 2 2 4 3 4	シモダ アツコ	人間生活文化研究所	助手
	下田 敦子		

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

## 9. 研究実績の概要

独自の文字を持たないタイ北部山地民(カレン)は口伝と身体技術の模倣により染織技術を伝承してきた。本研究では、項目反応理論を用いて、染織技術を易しいものから順番に(その最適な年齢において)習得していく「タイ文字による指導モジュール」を開発し、現地の学校において有効性を検証する。これにより、タイ語教育を受けているカレン若年世代(児童生徒)が、学校教育において染織技術を文字によっても習得できるように一般化を図る。

今年度は、昨年度に試案作成した基本的な指導モジュールが教育現場において実施可能であるかを検証するために、タイ政府による普通科教育の学校(チェンマイ県ドーサケット郡M中学校)において、一定の条件を保持しつつ実習授業を行った。

実施期間は第1期が5月から10月、第2期が11月から翌年の3月であった。いずれの期間においても、毎週木曜日、外部講師のカレン女性R氏が学校に赴き、中学女子生徒14人を対象として、指導モジュールに基づく実習授業を実施した。生徒らはカレンの染織技術の習得に取り組んだ経験は無く初心者であった。

第1期における15回の実習授業を通じて、指導モジュールの問題点を発見しそれを改善し、指導モジュールを修正した。その内容は、生徒一人当たりの作業空間、地機織り作業に適した照度と床の材質、個人の身長に合わせた機の設置の高さ、等であった。また、単元ごとの時間配分に関しても不適切な箇所があったのでこれを改善し修正した。修正した指導モジュールを用いて第二期を開始したが、その後、特に修正箇所は見出されず、目標としていた「肩掛けバッグの製作」は、全生徒が決められた時間内に完成することができた。